

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里(やまぶき棟)		
所在地	奥州市江刺区藤里字平37-2		
自己評価作成日	平成27年1月17日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&JizvosyoCd=0391500154-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型デイサービスが同一施設内にあり、利用者の相互交流や合同でのレクリエーションの実施など、入居者様に対し多様なサービスを提供しております。また、季節感を感じて頂けるような年間行事として、お花見・夏祭り・紅葉狩り・クリスマス会などを実施しております。また、地域との交流にも積極的に取り組んでおり、保育所・小学校との交流会や中学校の職場体験実習等の受け入れを行ってきました。男性職員の比率が比較的高いが、入居者・職員ともに和気藹々と楽しく生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員は、認知症対応型共同生活介護の目的を理解し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、安心して日常生活を送る事が出来るよう、サービスの提供に日々努力している。
・会社は、人材の育成に力を入れ、職員が資格取得に取り組めるよう、就業環境に配慮している。
・「身体拘束ゼロ宣言」をし、身体拘束無しに取り組んでいる。(居室や出入り口にセンサーを使用していない。)
・排泄の自立支援に向け、トイレでの排泄に取り組み、効果を上げている。(ポータブルトイレは置いていない。)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「笑顔」「和」「支えあい」を掲げ、利用者へ積極的に接し、職員間で連絡ノートを活用し、些細な事から情報を共有し、笑顔あふれる施設作りをしている。	ホームの理念に基づき、「ふじの里の目指す介護」を話し合い、日々実践している。連絡ノートは、管理者から職員に伝えたいことや利用者への対応等日常の細かな事を記入しており、職員は出勤したら、業務日誌と併せてすぐ読み署名・確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会など保育所園児さんの慰問を受け利用者さんとの交流会を開催した。開所3年目にはいり、近隣小中学校との交流会と地域の防災訓練などの参加をした。	保育園児と、お遊戯披露・肩たたき・握手など交流し、利用者はとても喜んでいる。中学生は、2年生は1日職場体験学習、3年生は対話交流し、対話した利用者に年賀状を頂いている。また、地域の防災訓練に、利用者と一緒に参加する等、地域とは日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市より施設見学の依頼を受け、施設見学と質疑応答の時間を持つ機会ができた。近隣中学校の生徒さんの職場体験をし認知症の方との接し方など理解して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議委員の皆様、に、敬老会や施設慰問(大正琴等)の行事に参加頂いた。またその際、行事に関する感想や運営方法に関する助言等を頂いた。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。避難訓練について、お花見について、ボランティアによる慰問について等の行事の実施経過や、次回までの予定について報告し、委員から意見を頂いている。また、ボランティアによる慰問と誕生会の日に会議を開催し、利用者の状況や活動に感想を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際参加頂いている、市職員の委員と情報を交換している。	年2、3回、市主催の施設(事業所)の説明会に出席し、情報を得ている。また、市の担当窓口には、認定や申請等にケアマネが向いて、指導・助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き、勉強会を開催して社員全員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」をしている。職員の目指す介護に「ちょっと待って」を言わない介護を掲げ、取り組んでいる。玄関は、外にチャイムがあり、夜間は施錠している。利用者の不意な外出には、職員がさりげなく後ろからついて行く。また、ユニット(ふじ棟)からユニット(やまぶき棟)に訪問する時も、それぞれの棟の職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料をユニットに備え付け、社内にて勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活自立支援事業をユニットに備え付けているが、利用している利用者はなく勉強会をまだ開催できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考える様接し、丁寧に説明をするよう心掛けるとともに、意向確認所にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームページのお問い合わせフォームや目安箱を利用し、利用者、ご家族様からの要望などあった場合には意見の反映を心掛けている。	目安箱・ホームページでの意見収集の機会を設けているが、特に利用はされていない。家族からは、面会時や通院時の機会を捉えて、意向を聞いている。毎月、送付している「ふじの里だより」の利用者毎の近況報告が喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表者と管理者は頻回に意見交換を行い運営に生かしている。その際、職員個々から出ている意見等も具申している	職員から、夏場の温度設定28度は、西日が入る居室はかなり高温になる、一律の管理は難しいという意見が出され、温度計を備え、調節することになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員でのミーティングを定期的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮とともに、介護支援専門員の受験、社会福祉主事、実践者研修を受講した職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の会員であり、岩手県や奥州ブロックの定例会に参加している。また交換研修等を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった場合、本人様と面会をし、ホームにて、どのような生活をしたいのか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親身かつ丁寧な説明を心掛け、安心してもらえるよう努めている。不安に思う所があった場合いつでも相談に応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ホーム入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様の意向を伺い、質問に応じ納得して頂けるよう努めている。利用前であっても、都度相談には応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様との面談を通し、今一番困っている事、一番したいことを明確にし、どのサービスが一番良いのか、話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事や、食後の食器拭き、おしぼり作り、洗濯物たたみをして頂いたり、梅干しの作り方を教わりながら作るなど、教え教えられながらの生活を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、毎月のおたよりにて、本人の生活の様子や思いを伝え、把握してもらおうと共に、ケアに関して、相談しながら気軽に話し合うことができる様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容師が親戚の利用者がおり、面会の際調髪をされると話されていたことがあったので、円滑に行えるよう支援している。	地元の踊りの会(年1回訪問)の方々の来訪を楽しみに待っていたり、老人クラブの方々が大勢で来てくださったり、正月やお盆の外泊を家族に勧めたりしている。理容は、訪問理容を利用したり、行きつけの美容院は家族が連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で座ったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時でも、相談に応じられる事を説明している。ご家族様より近況を確認したことがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、事務所にて新聞を読むことが日課の入居者に対して、介護職、事務職等が協力して事故のないように対応支援している。	事務室で新聞を読む日課のある方が毎日できるよう支援している。自分で新聞を購入している方は、スーパーのチラシをチェックし、「これが安い。」等の情報を職員に話したりしており、思い思いの意向や日常を把握し、関わりを持っている。また、居室担当制にしており、職員は1~2名の担当となり、連絡ノートで情報の共有を図っている。難聴の方へは、耳元で話しかけ、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認したりし現状を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の状況を把握し、ケアプランと日課表を作成、日々経過記録を確認し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実際の介護場面を通して、利用者の生の声を聴き、ケアの方針を決定している。ただし、家族のつながり弱い入居者もあり、家族の意向を聴取できないこともある	居室担当制で、1年交替にしている。居室担当者が、モニタリングし、カンファレンスで職員と意見交換し、計画作成担当者が介護計画を作成している。家族に説明し意見を聞いている。また、本人に説明し、サイン貰うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、連絡ノートにて日々の利用者の状況を記入し職員間にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせてケアに必要な事柄や物の検討を常にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の防災訓練等に参加し、地域との交流を図っている。またドライブのコースなど、バリアフリーにて車椅子でも利用出来るトイレなど活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人様・ご家族様とホーム職員が医療機関の受診を含めた医療サービスの提供に関し役割を決め、対応している。	かかりつけ医の受診は、家族が行っている。かかりつけ医が協力医の場合、職員が同行している。また、風邪等であれば、家族の了解を得て、協力医に診てもらっている。医療機関とは、情報提供書や看護サマリー等で情報交換し、関係を大事にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、受診状況など状況に応じ、都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を両機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めスムーズにホームに戻ってこられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様に対し終末期をどこで迎えるのか意思を確認している。ご家族様のニーズにはできる限り柔軟に対応するとともに、終末期を迎えていると思われる入居者に対しては、ホーム・家族・協力医、地域の医療機関等の連携を図りながら対応していく。	入居時、終末期の意向について確認している。かかりつけ医(協力医)の往診と指示を得ながら、家族と看取りを経験している。今後も、家族の意向に沿った対応をしたいと考えている。AEDを備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは現在の状況を踏まえ見直しをしている。実践的訓練も今後定期的に行おうと検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中の避難訓練を行っている。(年2回) 近隣住民への協力体制の構築は不十分であるが、それを補うため、警備会社と連携を取っている。	消防署立会の訓練と、夜間想定(16時ごろ)の訓練を実施している。繰り返し訓練が必要と考えている。また、利用者と一緒に、地区防災訓練に参加した。警備会社との契約は、煙・火を感知した場合、消防署・社長・管理者等に通報されるシステムとなっている。	消防署立会、夜間想定訓練を実施している。今後、実際に夜間訓練されることを検討・実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁等で衣類を汚染した利用者に対して、直ぐに換えましょうとは言わずに、本人が衣類等を脱いだ際、さりげなく洗濯をしている。	難聴の方には耳元で話す、動作で推し量る等本人の意向の把握に努めている。また、失禁等での失敗もさりげなくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を職員からの問いかけによって引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自発的行動を優先はするが、ある程度規則正しい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	紅葉シーズンにドライブをする際、食堂にて食事をとるが、その際利用者と職員が話をしながら、本人の意向を確認しメニューを決めている。	献立は、栄養士が作成している。利用者は、職員と一緒に食材の準備、茶碗拭き、おやつ作り等出来ることに取り組んでいる。また、年1回の種山のレストランでの食事を楽しみにしている。水木団子やクリスマスの行事食も一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操を実施している。食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サイクルをアセスメントし、適切な時間に秘説誘導の声掛けをすることで、失禁等の頻度が減った入居者がいた。	排泄については、排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。適切な対応で、失禁の頻度を減らすことが出来た方もいる。これまで、夜間に限らず、ポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクを通じ適度の運動量の確保と水分補給を促し接種するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、入居者の意向を確認し、入浴回数を決めている。	入浴は、毎日入浴できるよう準備している。3名の方が、毎日入浴している。インフルエンザに罹患した方は、居室で清拭している。入浴を嫌がる方には、言葉かけを工夫し、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の落ち着く場所にベッドを設置し休んでいただいているなど、過ごしやすい環境には配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬の内容務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やカラオケなど好きな利用者と職員と対戦したり、利用者同士での対戦など楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣のドライブに行ったり、戸外の散歩をしている。季節行事でお花見やつつじ祭り、紅葉狩り等があり楽しませている。	天気の良い日は、戸外の散歩に出かけている。車椅子の方もホームの周りを散歩している。月1回、季節の行事で外出し、お花見、紅葉狩り、特に種山でのレストラン外食を楽しみにしている。冬場は、隣接のデイサービスのホールで運動会をしたり、白鳥を見に行ったりしている。日用品等の小さな買い物は、利用者1名を連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで小口現金として管理している。買い物会などの行事の場合は金額を決めて購入できる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわからない方に対し、目につくような張り紙を掲示し、トイレの場所をわかりやすくするよう配慮している。	共有のホールには、利用者と共同で作った季節の壁飾りが掲示されている。作品の下には、作者名(利用者)も連記しており、利用者への励ましになっていると思われる。床暖、空気清浄機で適切な環境が整備されている。「トイレ」への表示は、車椅子や腰を曲げた方の目線に合わせた位置に貼り、矢印でトイレまで続いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事など、なじみの利用者同士で楽しく食べられるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。テレビを持ち込んだり、使い慣れた椅子など持ち込まれている。	ベッド、洗面台、押し入れ、エアコンが備え付けてある。面会時家族と一緒に写した写真、職員手作りの誕生日カードが飾られてある。亡くなられた方には、DVDを編集し、家族に渡し、感謝されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクを通し毎日の年月日を確認すると共に明確にし生活をしている。トイレに「便所」と張り紙をして迷わず使用されています。		